

大項目	読むこと						
小項目	特殊音節の読み（音韻）						
タイトル （教材名）	言葉の音を記号であらわそう！						
目的 身につけてほ しい力	文字を記号であらわすことで、文字と音の変換を理解することができる。						
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	<p>【4種類の記号】</p> <p>●・・・・清音、濁音、半濁音（あ、が、ば、など）</p> <p>▲・・・・撥音（ん）</p> <p>●●・・・・拗音（しゃ、しゅ、しょ、など）</p> <p>□・・・・促音（小さい「っ」）</p> <p>【記号のカード】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"><div style="width: 20px; height: 20px; background-color: black; border-radius: 50%;"></div></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"><div style="width: 20px; height: 20px; background-color: black; clip-path: polygon(50% 0%, 61% 35%, 98% 35%, 68% 57%, 61% 35%);"></div></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"><div style="width: 20px; height: 20px; background-color: black; border-radius: 50%;"></div><div style="width: 2px; height: 10px; background-color: black; margin-left: 5px;"></div><div style="width: 10px; height: 10px; background-color: black; border-radius: 50%; margin-left: 5px;"></div></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"><div style="width: 15px; height: 15px; background-color: black; border: 1px solid black;"></div></div> </div> <p>【単語の例】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">●●●・・・・（きゃべつ）</td> <td style="width: 50%;">●□●●●・・・・（がっしょう）</td> </tr> <tr> <td>●●●▲・・・・（ちょきん）</td> <td>●□●・・・・（きって）</td> </tr> <tr> <td>●▲●●・・・・（でんしゃ）</td> <td>●●▲●●・・・・（じてんしゃ）</td> </tr> </table>	●●●・・・・（きゃべつ）	●□●●●・・・・（がっしょう）	●●●▲・・・・（ちょきん）	●□●・・・・（きって）	●▲●●・・・・（でんしゃ）	●●▲●●・・・・（じてんしゃ）
●●●・・・・（きゃべつ）	●□●●●・・・・（がっしょう）						
●●●▲・・・・（ちょきん）	●□●・・・・（きって）						
●▲●●・・・・（でんしゃ）	●●▲●●・・・・（じてんしゃ）						
教材の使用方 法	<p>①厚紙などを児童生徒が動かしやすい大きさに切り、4種類の記号のカードを複数枚作る。</p> <p>②指導者が文字と記号の関係を説明し、簡単な例を作る。児童生徒が理解できたかを確認するために、同じような例で児童生徒に記号を選んでもらう。</p> <p>（例. 「きゃべつ」、「きゅうり」など）</p> <p>③指導者が単語を読み上げ、児童生徒にその単語を記号であらわしてもらおう。</p> <p>簡単なものからはじめ、徐々に拗音や促音を含む単語を扱うようにする。（以下の取り組みは発展として）</p> <p>④先に記号を見せて、どんな言葉が当てはまるか、児童生徒に考えてもらおう。考えた言葉は、書字もしくは口頭で指導者に伝えるようにする。</p>						
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・カード1枚が1文字に対応しているのではなく、1モーラに対応している。例えば「とまと」や「きって」は3文字で3モーラ、「ちょこ」は3文字で2モーラになる。 ・口頭のやりとりと視覚的な記号を両方使うので視覚や聴覚の弱い児童生徒にも活用できる。 ・児童生徒の発達に合わせて、撥音（ん）を▲ではなく●で表してもよい。 						

	・参考文献 「LD の子の読み書き支援がわかる本」(小池敏英、講談社、2016年)
--	---